



第33期 事業報告書

平成17年4月1日▶平成18年3月31日

TAIYO ELEC

● 株主・投資家の皆さまへ

ごあいさつ

当期のわが国経済は、企業収益の改善および設備投資の増加や、個人消費の緩やかな増加など民間需要に支えられて回復基調となりました。

一方、原油価格の高騰による素材価格等の上昇による今後の経済に与える影響が懸念されるところとなりました。

パチンコ業界におきましては、平成16年7月の規則改正等（「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」、および「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」）に伴い、新基準に基づくパチンコ機が平成16年11月以降各パチンコメーカーから市場投入され、その後順調に新基準機へ入替が進んでおります。一方、パチスロ機につきましては、新基準機の財団法人保安電子通信技術協会（保通協）による型式試験は徐々に適合してまいりましたが、市場におきましては、旧基準機による需要が依然高いため入替は進まず、今後は、機種毎の検定期限到来により入替需要が見込まれるところであります。

このような状況のもと、当社は、コーポレートブランドの確立をコンセプトにキャラクター利用によりゲーム性に重点をおき、クオリティの高い機種開発を行ってまいりました。

また、パチンコホールおよびファンのニーズに応えるため、開発部門の機動力を生かした機種開発を推進するとともに、開発部門に対しては、経営資源の集中投資を行ってまいりました。

パチンコ機につきましては、アクションアニメの巨匠、モンキーパンチ氏原作のアニメであります、シンデレラボーイとのタイアップ機として「CR シンデレラボーイ」、1980年代を代表する大ヒット映画トップガンとのタイアップ機「CR トップガン」、国民的人気演歌歌手八代亜紀さんとのタイアップ機「CR 演歌の歌姫 八代亜紀」そして、業務提携先であるイトレックジャパン株式会社との共同開発第1弾であります「CR 五右衛門」など、4シリーズを中心に販売を行ってまいりました。

パチスロ機につきましては、当期は販売を計画いたしておりませんでしたが、新基準機への開発はより一層強化して継続的に行ってまいりました。その結果、平成18年3月に新基準機でありますパチスロ5号機当社第1弾として「お江戸大捜査線」がパチスロメーカーの中でも早期に保通協型式試験を適合しております。本機については市場動向を鑑み次期以降の発売予定としております。

以上により、パチンコ機の当期販売台数は、8万5千台（対前期比4万9千台増）、パチスロ機の販売は過去販売機種の再販により94台となっております。

以上の結果、当期の売上高は186億78百万円（対前期比104億33百万円増）と前期を大幅に上回りました。

利益面につきましては、総販売台数の増加ならびにパチンコ機（いわゆる新台）に比べ利益率の高いパチンコ機ゲージ盤（いわゆる面替）の販売台数割合が38.4%（対前期比32.0%増）と前期に比べ増加したことによる利益向上と、管理部門の経費節減に努めた結果、経常利益は8億61百万円（対前期比30億2百万円増）、当期純利益は8億円（対前期比49億27百万円増）と前期を大幅に上回る結果となりました。



代表取締役社長
佐藤英理子

次期の見通し

次期の見通しは、原油高、金利上昇懸念、海外の景気動向の不透明要素はあるものの、景気の回復は堅調に推移するものと予想されます。

遊技機業界においては、ホールの二極化により店舗数の減少傾向が続くなか、メーカー間の競争がさらに激しくなることが予想されます。

このような状況下、当社は、ゲーム性・ビジュアル性・サウンド性に対し特に強化を図り、企画力に重点を置いたクオリティの高い機種開発を行うと同時に、価格帯という開発テーマを新たに加え、年間において多様なバリエーションある発売機種数の増加と安定的な市場投入により、タイヨーエレクトロニクスブランドのシェア拡大を図ってまいります。

さらに、「ゲーム性豊かな」「わかりやすい」「遊べる」パチンコ機・パチスロ機の開発を推進するとともに、ニーズの変化に対応した開発提案を行い、タイヨーエレクトロニクスならではの独創性を生かし、企画力に優れたクオリティの高い商品をホール様に実感していただく開発に専念してまいります。

営業につきましては、直販体制強化のため4ブロック営業部体制をさらに充実し、責任の明確化と顧客サービス強化、情報収集および分析の強化を図ってまいります。また、効率的な営業体制を目指し営業所等を増やすことを視野に入れております。

販売台数につきましては、パチンコ枠のフルモデルチェンジによる、工場のライン改造を上期中に予定していることを考慮し、上期の販売機種数はパチンコ機3シリーズ販売台数33,000台といたします。またパチスロ機は上期において依然旧基準機の需要が高いと想定されるため、既に保通協型式試験適合済の新基準パチスロ機1シリーズ販売台数2,000台といたします。下期の販売機種数は、パチンコ機4シリーズ販売台数82,000台とし、内1シリーズは低価格商品を予定しております。また、下期のパチスロ機につきましては、旧基準機から新基準機への入替時期などを勘案し、市場動向を見ながら柔軟に対応してまいります。

以上のような見通しのなか、平成19年3月期の業績につきましては、

販売台数	117,000台
売上高	278億51百万円
経常利益	13億円
当期純利益	9億50百万円を見込んでおります。

また、当社は、企業価値を高めながら、株主の皆さまに利益還元を図ることを経営の重要課題と認識しております。利益配分につきましては、将来の事業展開と経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しながら、安定した配当を継続していくことを基本方針とするとともに、現在および将来の業績動向をベースに、財務状況や配当性向などを総合的に勘案しながら実施していきたいと考えております。

なお、次期の利益配当金につきましては、1株につき期末配当20円を予定しております。

さらに、株式の流動性向上と投資家層の拡大を重要課題の一つと認識しております。現在の投資金額を勘案し、投資家の皆さまにより投資しやすい環境を整えるため平成18年4月21日開催の取締役会において、平成18年8月1日をもって1単元の株式数1,000株を100株へ引下げることと決定いたしました。

株主および投資家の皆さまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

経営の基本方針

当社は、「常にパイオニア精神を持ちつづけて、ゆるぎなきアイデアと開発力を駆使し、エンターテインメントとしての商品づくりを通して、明るく豊かな社会づくりに貢献します」という経営理念のもと、様々なスタンスから娯楽を研究、熟知し、パチンコ・アレパチ・パチスロファンおよび遊技場のニーズを常に先取りした斬新かつ優れた商品をお客さまに提供し、健全なレジャー産業の発展に寄与することを通して社会に貢献することを経営の基本方針としております。

● 財務諸表

貸借対照表

単位：百万円

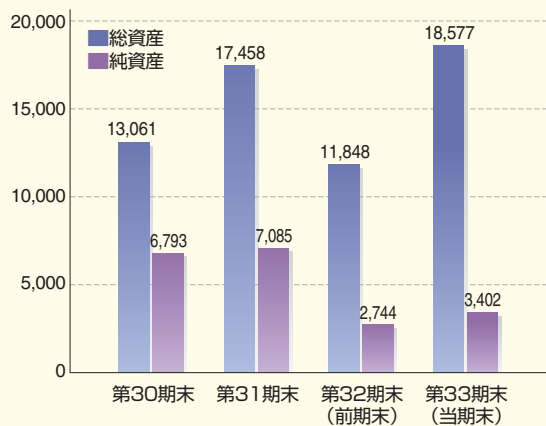
科目	前期末 平成17年3月31日現在	当期末 平成18年3月31日現在
資産の部		
流動資産	8,377	14,851
固定資産	3,470	3,725
有形固定資産	2,474	2,636
無形固定資産	46	38
投資その他の資産	949	1,050
資産合計	11,848	18,577

単位：百万円

科目	前期末 平成17年3月31日現在	当期末 平成18年3月31日現在
負債の部		
流動負債	8,369	12,834
固定負債	733	2,340
負債合計	9,103	15,174
資本の部		
資本金	950	950
資本剰余金	992	992
資本準備金	992	992
利益剰余金	706	1,286
利益準備金	192	192
別途積立金	4,000	—
当期末処分利益又は当期末処理損失(△)	△3,486	1,093
その他有価証券評価差額金	95	175
自己株式	△0	△1
資本合計	2,744	3,402
負債及び資本合計	11,848	18,577

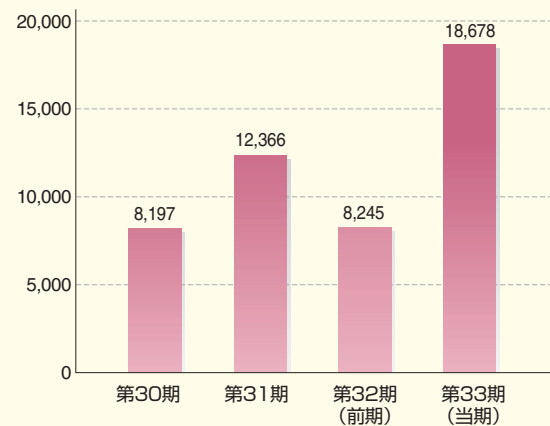
総資産・純資産

単位：百万円



売上高

単位：百万円



損益計算書

単位：百万円

科目	前期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	当期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売上高	8,245	18,678
売上原価	6,948	13,559
売上総利益	1,297	5,119
販売費及び一般管理費	3,477	4,284
営業利益又は営業損失(△)	△2,179	834
営業外収益	124	97
営業外費用	85	69
経常利益又は経常損失(△)	△2,140	861
特別利益	1	9
特別損失	1,616	24
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△3,755	846
法人税、住民税及び事業税	10	46
法人税等調整額	361	—
当期純利益又は当期純損失(△)	△4,127	800
前期繰越利益	641	292
当期末処分利益又は当期末処分損失(△)	△3,486	1,093

利益処分計算書

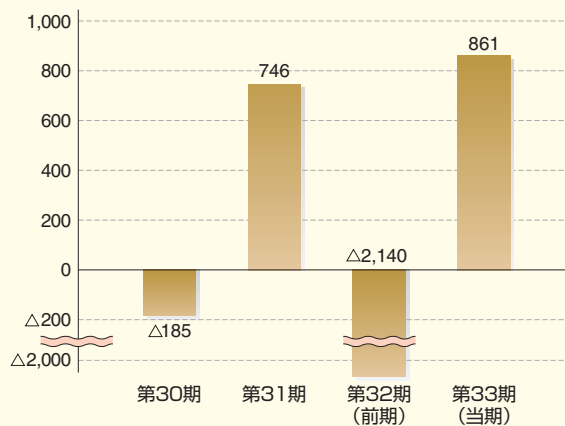
単位：円

科目	前期 平成17年6月29日	当期 平成18年6月29日
当期末処分利益又は当期末処分損失(△)	△3,486,001,964	1,093,179,100
任意積立金取崩額		
別途積立金取崩額	4,000,000,000	—
合計	513,998,036	1,093,179,100
利益処分額		
利益配当金	221,150,000 (1株につき20円)	221,134,000 (1株につき20円)
次期繰越利益	292,848,036	872,045,100

(注) 日付は、株主総会承認日であります。

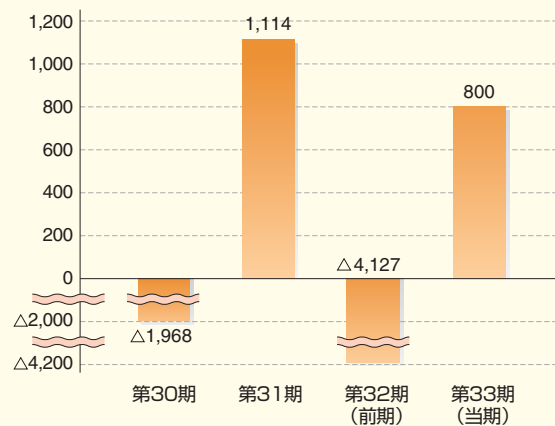
経常利益

単位：百万円



当期純利益

単位：百万円



● トピックス

CRトップガン

平成17年6月21日(火)に、東京支店ショールームにてパチンコ新機種「CRトップガン」のプレス発表会および展示会を開催、本社および各支店、営業所ショールームにて展示会を開催しました。



愛・地球博「P-Forest」開館式が行われました

平成17年6月23日(木)に、愛知県遊技業協同組合主催による「文化の心を育む 遊びの森 P-Forest」(長久手会場 モリゾー・キッコロメッセ)の開館式が行われました。

当社は【骨伝導パチンコ】、【リサイクルパチンコ】を提供し、開館式では、当社社長がテープカットに参加致しました。



イートレックジャパン株式会社との業務提携発表



平成17年9月30日開催の取締役会において、イートレックジャパン株式会社との間で、パチンコ機の企画・開発並びにモバイルコンテンツ事業等に関する業務提携を行うことを決議しました。

業務提携の内容

- (1)パチンコ機の新製品の企画・開発において、両社の有するノウハウを活用し、より市場競争力ある製品開発を行い企業価値向上を図る。
- (2)イートレックジャパン株式会社のモバイルコンテンツ事業のノウハウと当社のオリジナルコンテンツを活用し、モバイルコンテンツ事業等を積極的に推進する。

CR演歌の歌姫 八代亜紀

国民的人気演歌歌手八代亜紀さんとのタイアップ機

平成17年11月28日(月)に、東京支店ショールームにてパチンコ新機種「CR演歌の歌姫 八代亜紀」のプレス発表会を開催しました。



CR五右衛門

イートレックジャパン株式会社との共同開発第一弾

平成18年3月6日(月)に、東京支店ショールームにてパチンコ新機種「CR五右衛門」のプレス発表会および内覧会を開催、本社および各支店、営業所ショールームにて内覧会を開催しました。



「スター・トレック40thプロジェクト」に協賛

平成18年5月16日(火)に、オリベホール(東京都港区)にて「スター・トレック」全米放送開始40周年のメモリアルイヤー企画「スター・トレック40thプロジェクト」の共同記者発表会が行われ、当社も協賛企業として参加しました。

発表会は、プロジェクトの主催者であるパラマウントホームエンタテインメントジャパン株式会社浅香社長の挨拶で始まり、同社のマーケティング部門、ライセンス企業である株式会社デアゴスティーニ・ジャパン、GEコンシューマー・ファイナンス株式会社のプレゼンを経て、協賛企業代表として当社代表取締役社長・佐藤が挨拶を行いました。その後、各登壇者がスター・トレック乗組員に扮してのフォトセッションが行われ、会場はプレス関係者で大盛況となりました。



● ターゲット

タイヨーエレクトリックブランドの確立とより安定した収益力の確保を目指して

当社は、ゲーム性・ビジュアル性・サウンド性に関する取り組みを中心に、ブランド力をさらに引き上げ、企画力に重点をおいた、クオリティの高い機種開発を行うと同時に、価格帯という開発テーマを新たに加えることにより、タイヨーエレクトリックブランドの存在感拡大を図ってまいります。

さらに、売上高経常利益率を安定的に維持し事業拡大に向けた財務体質の強化を図ることが株主の皆さまのご期待に応えることであると考えており、今後とも業務に励む所存であります。

① 研究開発活動の強化

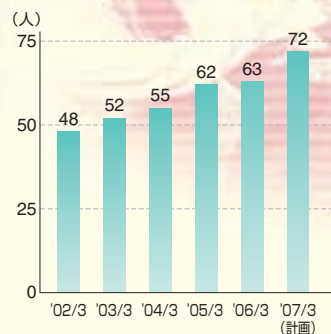
当社は「コーポレートブランドの確立」を目指し、パチンコ機・パチスロ機の新機種の企画開発について、ビジュアル性・サウンド性・ゲーム性・オリジナル性を重視、クオリティの高い機種開発を積極的に推進してまいります。

また、自社開発部門とソフト開発協力会社との連携をさらに密にするため、平成17年9月ソフト開発会社である、イーテックジャパン株式会社との業務提携により、企画開発面の一層の強化を図りました。当社の自社開発チームの強化を進めるとともに新たな開発チームが加わることで、さらに開発期間が短縮できること、今まで以上にゲーム性豊かでクオリティが高く、多様なバリエーションある企画開発を行うことが可能となり、年間販売機種数の増加と安定的に市場投入できる体制が確立できるものと考えております。

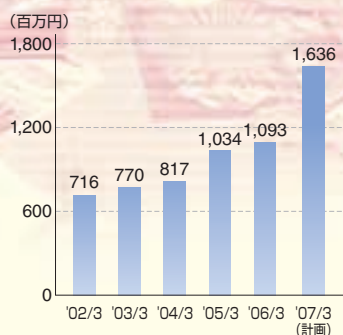
また、製品原価コスト削減のため、開発企画段階から部品の共通化などさらに強化してまいります。また、よりクオリティの高い機械開発に加えて、市場に見合う価格帯という開発テーマを新たに掲げ、年間における機種開発構成にメリハリをつけることを図ってまいります。さらに、「ゲーム性豊かな」「わかりやすい」「遊べる」パチンコ機・パチスロ機の開発を推進するとともに、多様なニーズの進化に対応した機種開発を提案してまいります。特許部門につきましても、新しい企画開発をさらに進めることにより有効特許取得を積極的に行ってまいります。

以上のことを強力に推進するため、開発部門については、将来への成長のための先行投資を含め経営資源を重点的に集中投下してまいります。

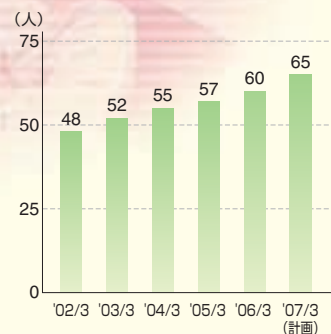
■ 開発部門スタッフ数の推移



■ 研究開発費の推移



■ 営業スタッフ数の推移



②営業体制および顧客サービスの強化

当社の販売体制は全国8支店、1営業所の拠点による直販方式と、ホール様への販売仲介を行う代行店による代行販売方式があります。直販体制強化のため、平成17年4月各拠点を4ブロックの営業部体制として執行役員を配置し、傘下の支店を統括し販売体制における責任の明確化と顧客サービスの充実、情報収集の強化を図っております。直販体制強化の一環として、平成17年5月神戸営業所を設置しております。

また、平成17年4月より、営業社員にモバイル端末を携帯させ、提案営業の推進による顧客サービスの強化と、ホール様の機械入替情報をはじめ、各種営業情報の収集・分析管理を行い、開発ならびに営業戦略に活用しておりますが、今後さらに情報のスピード化に対応し、モバイルソフト内容の充実を図り、新機種開発への情報提供と営業力の強化に役立ててまいります。

代行店販売につきましても、代行店選定をさらに厳格なものとし、販売台数の拡大のため直販営業と併せ、各地域密着の代行店の連携を一層強化いたします。

③リスク管理の強化

当社はリスク管理体制の強化を図るため、平成18年2月より内部統制委員会を設置しております。内部統制委員会では、各部門で個別に管理していたリスクを総括的に管理するとともに、全社的視点から内部統制システムおよびコンプライアンス体制等の再構築を推進し、経営体制の強化を目指してまいります。

④品質管理およびセキュリティの強化

当社は製品の品質向上を図るため、組織として研究開発本部内に開発品質管理室を、製造部内に製造品質管理室をそれぞれ設置して、開発段階における品質管理と量産体制下における品質管理を行っております。品質管理セキュリティ委員会の強化により、開発における品質およびセキュリティ基準の厳格化とセキュリティ設備の増強、さらに検査基準の強化と充実を図り、品質管理とセキュリティの両面で、より一層のブランド価値向上を目指してまいります。

⑤リサイクル・リユースの推進

当社は従来より循環型社会における社会貢献の一環として、リサイクル・リユース技術の構築を推進してまいりました。今後、リサイクル・リユースに対応した新機種の開発・供給システムの確立を目指し、リサイクル率の向上を図ってまいります。

⑥人材育成の強化

当社は、成果主義型の目標管理制度を基本とした人事制度に基づき、成果に応じた実力ある若手人材の起用を推進することで、組織の活性化を図っております。また、コンプライアンス強化および経営環境の変化に柔軟に対応できる人材育成のため、個性ある社員教育を継続実施しております。今後も、顧客サービスの向上および全社的なコンプライアンス意識の高揚を図るため、研修内容を充実してまいります。

● 企業データ

会社概要

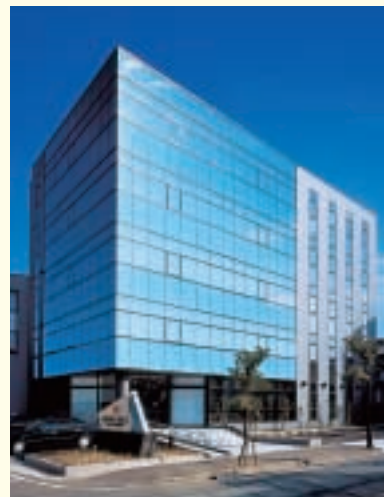
- 会社名 タイヨーエリック株式会社
 ■本社所在地 〒452-0839 名古屋市西区見寄町125番地
 ■設立 昭和48年7月11日
 ■資本金 9億5,040万円
 ■事業内容 バチンコ機の開発、製造、販売
 バチスロ機の開発、製造、販売
 ■従業員数 194名（平成18年3月31日現在）
 ■主要取引先銀行 株式会社 第三銀行
 株式会社 三菱東京UFJ銀行
 株式会社 中京銀行
 株式会社 名古屋銀行
 株式会社 十六銀行
 株式会社 三井住友銀行
 中央三井信託銀行 株式会社
 ■加入団体 日本遊技機工業組合

役員（平成18年6月29日現在）

- 代表取締役会長 佐藤 昭治
 ■代表取締役社長 佐藤 英理子
 ■常務取締役 三宅 昇吾
 ■取締役 加藤 浩二
 ■取締役 山本 國昭
 ■常勤監査役 犬飼 勲
 ■常勤監査役 神田 廣太郎
 ■監査役 古田 五百三
 ■監査役 正村 俊記
 ■上席執行役員 池田 憲治
 ■上席執行役員 筒井 雄次
 ■執行役員 納富 康
 ■執行役員 佐藤 真朗

ネットワーク

- 本社・本社工場 名古屋市西区見寄町125番地 TEL(052)502-9222 (代)
 ■札幌支店 札幌市東区北7条東3丁目28番32号 TEL(011)753-2022 (代)
 井門東ビル2階
 ■仙台支店 仙台市太白区泉崎2丁目25番15号 TEL(022)743-2276 (代)
 早川ビル1階
 ■千葉支店 千葉市中央区中央1丁目7番8号 TEL(043)201-3088 (代)
 シグマビル4階
 ■東京支店 東京都台東区東上野2丁目20番1号 TEL(03)3833-0244 (代)
 晴花ビル1階
 ■横浜支店 横浜市西区北幸1丁目5番4号 TEL(045)317-4788 (代)
 三協ビル5階
 ■名古屋支店 名古屋市西区見寄町125番地 TEL(052)506-2656 (代)
 ■大阪支店 大阪市浪速区元町2丁目5番8号 TEL(06)6633-7677 (代)
 ラ・グランディオソ3階
 ■神戸営業所 神戸市中央区磯辺通3丁目2番11号 TEL(078)231-0051 (代)
 三宮ファーストビル1階
 ■福岡支店 福岡市博多区博多駅東3丁目4番10号 TEL(092)437-5155 (代)
 コマビル1階



本社社屋

株式データ (平成18年3月31日現在)

■発行可能株式総数	41,800,000株
■発行済株式の総数	11,058,000株
■株主数	668名
■大株主	

株主名	当社への出資状況		当社の大株主への出資状況	
	持株数	出資比率	持株数	出資比率
佐藤英理子	2,618 ^{千株}	23.68%	— ^{千株}	—%
株式会社サン・ライン	1,850	16.72	—	—
佐藤昭治	1,038	9.39	—	—
佐藤麻奈美	464	4.19	—	—
三宅亜紀	350	3.16	—	—
柏原俊高	245	2.21	—	—
佐藤照子	238	2.15	—	—
株式会社第三銀行	222	2.00	210	0.11
松井証券株式会社 (一般信用口)	152	1.37	—	—
株式会社三菱東京UFJ銀行	150	1.35	—	—

(注) 1. 株式数は千株未満、出資比率は小数第2位未満を切り捨てて表示しております。
 2. 当社は、株式会社三菱東京UFJ銀行の持株会社である株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの普通株式34,21株 (出資比率0.00%) を所有しております。

株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	毎年6月
■株主確定基準日	期末配当金 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日 その他必要ある場合はあらかじめ 告知いたします。

■株式事務取扱場所・取次所	
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社

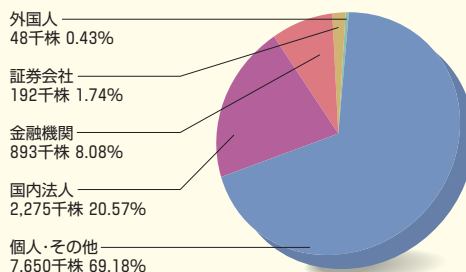
■同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 (〒460-8685) 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部 TEL0120-78-2031 (フリーダイヤル)
■同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
■公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事情により 電子公告ができない場合、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載アドレス(http://www.taiyoelec.co.jp/ir/koukoku/)
■単元株式数	1,000株 (平成18年8月1日より100株へ変更)

(注) 平成18年4月21日開催の取締役会において、平成18年8月1日付をもって1単元の株式数を1,000株から100株に変更する決議をしております。

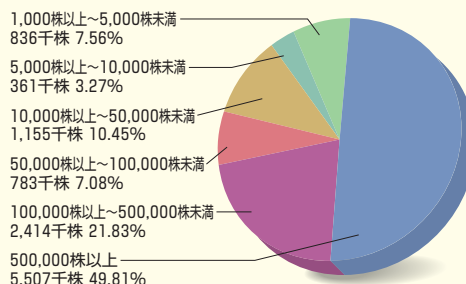
■お知らせ

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

■所有者別株式分布状況



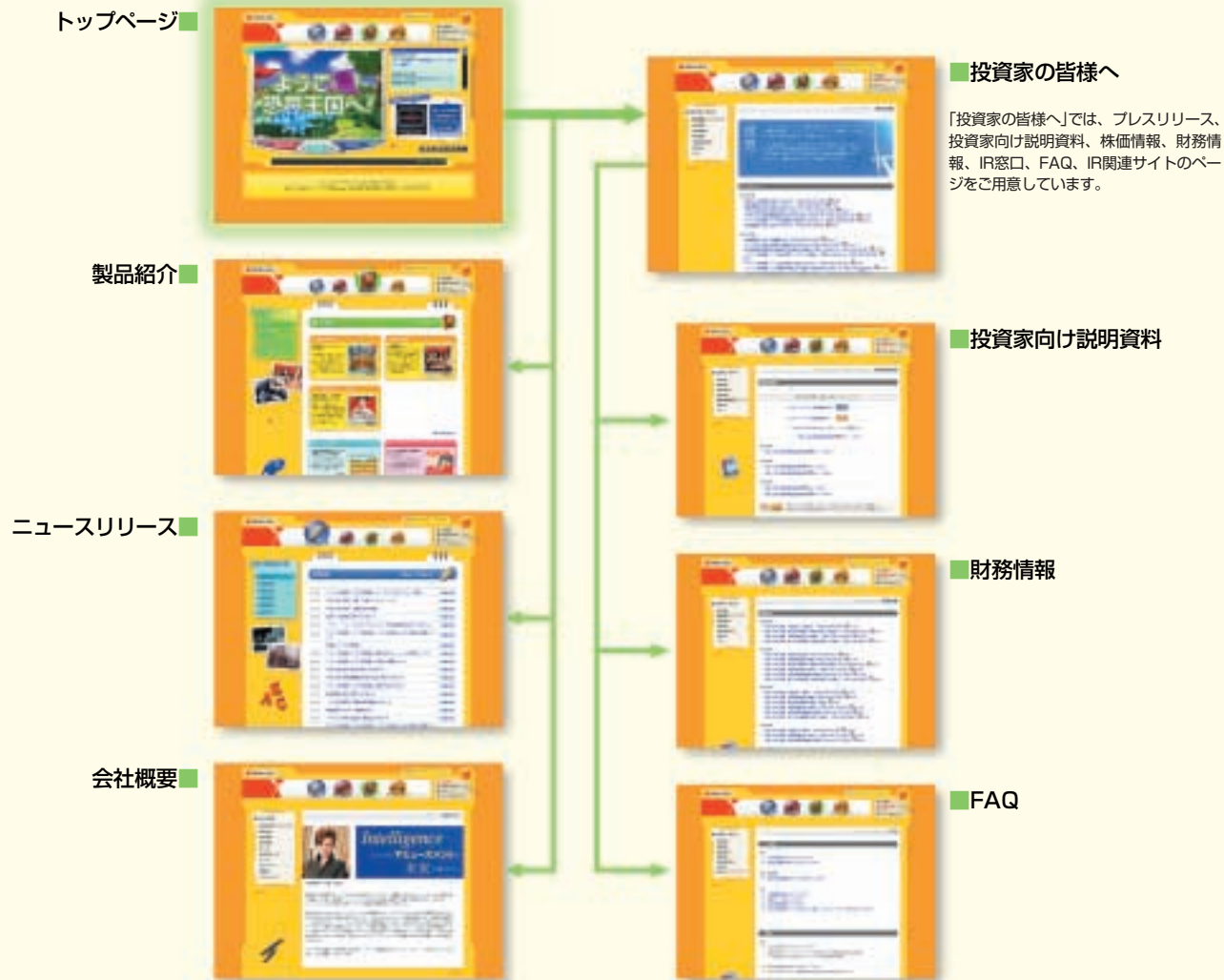
■所有株式数別分布状況



(注) 株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

ホームページでもIR情報を公開しています。

当社の最新情報をスピーディーにご提供するために、ホームページを開設しております。
投資家の皆様への情報も充実させておりますので、ぜひご覧ください。



タイヨーエレクトリック株式会社

名古屋市西区見寄町125番地 TEL (052) 502-9222 (代) <http://www.taiyoelec.co.jp/>